

総括

野口伸也

中央アジア・シルクロードへの夢に魅せられ、燃えるような情熱で始めたタクラマカン砂漠踏破遠征計画。3年の月日を経て、本当にたくさんの方々のお世話になってようやくこの遠征を成功させることができた。

だが、遠征計画のほとんどは、準備段階であった。計7回の長期国内合宿、2回の中国事前調査を行い、また毎週末に必ずトレーニング合宿を組んだ。学校の講義にも出ず、援助企業や中国側との交渉事項に走り回った。そんな3年であった。こうして1995年9月の出発を見たのである。

実際の砂漠探検においては、装備面の充実もあり、また幸運もあったであろう。何等大きな事故もなく、計30日間の踏破を滞り無く終了することができた。隊員の精神的状態も非常に良好であった。砂漠のサンプルやデータも数多く採集し、当初の目的は全て完遂した。

しかしながら意外な事もあった。なるほど我々のルートは確かに踏破するには斬新かもしれない。だが、予想以上に石油開発が進んだタクラマカン砂漠において、最も安全と我々の予想した、この「ヘディンの道」は、既に道なき道を行く巨大石油トレーラーの通り道と、ほとんどが重なっていたのである。やはり、100年前のヘディンの予想は正しかった。本年度をもって完成されたミンフォン＝コルラ間を南北に走る砂漠横断道路を例にとるまでもなく、このタクラマカン砂漠はかつての「秘境」「死の砂漠」といったイメージを払拭し、新たな転換期にたっている。同行していただいた中国科学院新疆生物土壤砂漠研究所の方々のような素晴らしい中国人達が、こういった新しい時代を切り開いているのだ。タクラマカン砂漠が誰でもすぐ行けるありふれた場所になってしまうその時代はすぐそこまで迫っている。

そういったさまざまな事柄を実感し、ここに報告する事ができるということだけでも、今回の遠征は非常に意義のあるものであったと思う。

最後に、本遠征の成功は、何よりも日中科学技術協力会議、関西大学学生部、関西大学探検部OB会、国内企業団体、そして中国科学院新疆生物土壤砂漠研究所の全面的な協力とご厚意あつてのものである。

もともと、中国タクラマカン砂漠という場所は学生レベルの探検では非常に探検許可の取りにくい所であり、また取れたとしても莫大な資金を必要とするものがほとんどであった。この探検計画発案からこれはかなり危惧されていた面である。しかしながら、これら数々の幸運な出会いと、その協力によって、そういった諸問題は（紆余曲折を経て）解決することができたのである。

皆様方のご理解とご協力に心からの感謝の意を述べさせていただきます。